

# 私と胃癌

## 北野 正剛

Seigo KITANO  
大分大学学長

### [経歴]

1976年 九州大学医学部附属病院 医員(第二外科)  
1981年 福岡市立第一病院(外科)  
国立療養所福岡東病院(外科)  
1983年 ケープタウン大学  
(外科 Senior consultant doctor)  
1988年 九州大学医学部附属病院 講師(第二外科)  
1990年 済生会八幡総合病院(外科部長)  
1992年 九州大学医学部附属病院 講師(第二外科)  
1993年 大分医科大学医学部 助教授  
(外科学講座第一)(科長代行)  
1996年 大分医科大学医学部 教授  
(外科学講座第一)  
2003年 大分大学医学部 教授  
(外科学講座第一)(統合のため名称変更)  
2011年 大分大学学長

### [趣味]

スキューバダイビング

### [座右の銘]

心如水

## 第9回

# 腹腔鏡胃がん手術始め

1990年わが国に腹腔鏡下胆嚢摘除が導入された。当時は従来の肝疾患の診断に用いられていた腹腔鏡と気腹器を借用したもので、今では想像できないほど機能が低い上、婦人科あるいは泌尿器科における小手術用鉗子で代用していたので、精緻で高度な技術を要する手術手技には困難を伴うものであった。

筆者は、前年の1989年夏に世界で腹腔鏡手術開始の情報を得て翌年、首尾よく希望した市中病院への出張が実現し1990年12月13日第1例を経験した。第1例目は3時間近い手術時間を要したが経験を積むにつれ手術時間が短くなり20例目で30分、30例目を超えると20分で終了することも多くなり、